

2023 年度日本太陽エネルギー学会 研究発表会開催報告

太田 勇*

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症（Covid-19）の感染症法上の扱いが5類に移行し、社会がまた一歩日常に戻った。昨年の福井大会では現地開催を基本としつつも、希望者にはWebによる参加も可能とする運営としたが、運営上の負荷もさることながら、大会はFace to Face で議論し、スケジュール時間外でも意見交換しながら交流を深める場であることを改めて強く感じたことから、Webによる参加をあえてなくして現地参加を促した。一見効率的で大会のスタンダードとなる可能性すら感じさせたWeb開催は、現地集合によるリアル開催の代替手段にはなっても、大会の意義を100%満足するものでは必ずしもないことを感じての方針転換となった。

2. 合同研究発表会の概要

研究発表会は、2023年11月16日～17日の2日間、大阪市泉佐野市にあるエブノ泉の森ホールを会場に開催された。前日の11月15日にはプレイベントとして、北庄司酒造、貝の池水上太陽光発電所、犬鳴山七宝瀧寺の見学会を開催した。

今年度の研究発表会では発表件数（講演論文集への掲載件数）：オーラル88件、ポスター9件、招待講演5件となり、昨年度の計93件からわずかでは

あるが増加した。内訳は以下の通りである。

参加者数は、当日参加者を含め160名と昨年度比1割程度増え、集うことの意義を会員の皆様に賛同頂けた結果と考えている。

研究発表運営委員会の委員は以下の通りである。（順不同、敬称略）

委員長	野村 裕宗	出光昭和シェル
副委員長	太田 勇	ミサワホーム総合研究所
〃	加藤 和彦	産業技術総合研究所
委員	石井 徹之	電力中央研究所
〃	伊藤 雅一	福井大学
〃	植田 譲	東京理科大学
〃	宇都宮健志	日本気象協会
〃	高野 章弘	F-WAVE
〃	盧 炫佑	OMソーラー
〃	原田 真宏	大和ハウス工業
〃	益子慶一郎	パナソニック
事務局	池田 祐一	日本太陽エネルギー学会

表 発表分野と発表数

発表分野	発表数
気象・地球環境	4
太陽熱利用	12
太陽電池セル・モジュール	6
太陽光発電システム	36
風力・水力	1
建築	22
材料・素子	1
光化学・電気化学	4
生物・バイオマス	4
応用利用・エネルギー貯蔵	7
理念・教育	0
	97



図 開催地である泉佐野市

* 株式会社ミサワホーム総合研究所 取締役

発表はそれぞれ持ち時間 14 分、質疑 5 分（交替 1 分）計 20 分で行われ、いずれの会場も Web 開催にはない一体感に溢れていた。

3. 特別講演

特別講演は、11 月 16 日、エブノ泉の森ホール大



発表会の様子 (1)



発表会の様子 (2)



発表会の様子 (3)



ポスター発表の様子

会議室で開催された。

特別講演 I では、(一財) 泉佐野電力事務局長 甲田裕武氏より「地域新電力におけるため池を活用したオフサイト PPA の意義」と題して講演を頂いた。

続いて、特別講演 II として、泉佐野市教育部日本遺産推進担当理事 中岡 勝氏より「泉佐野の 3 つの日本遺産と世界かんがい施設遺産について」と題した講演を頂いた。

鎌倉時代から戦国時代の荘園が国の史跡として残り、当時のため池が日本遺産や世界かんがい施設遺産として引き継がれているだけでなく、そのため池を地域の PPA 事業にも活かされている状況は大変興味深いものであった。

リアル開催の本格再開となった大会を無事終えることが出来たことに委員をはじめとする関係者のご支援とご協力に感謝の意を表します。また、泉佐野市の職員の方々の献身的なサポートにもこの場を借りて御礼申し上げます。

4. おわりに

昨年の福井大会では現地発表と討議は行ったものの、公式な懇親会は見送りとなっていた。コロナが予断を許さない状況だったので致し方なかったが、今回は 4 年ぶりに懇親会も開催し、交流の意義を肌感覚として実感したところである。エンジニアリングに関わる者としては、この価値をなんとか数値化できないだろうかと思いつつも、まずは滞りなく開催できたことを“良し”としたい。今回出席された方々も恐らく同様の感想をお持ちではないかと思う。「太陽エネルギー」、「再生可能エネルギー」を垣根なく討議する場としての年次大会の在り方については会員の皆様からも引き続きご意見をお願いしたいと考えております。



懇親会